

第 47 回武庫川流域委員会への意見書

- 提言書の合意に向けて -

委員 長峯 純一

委員会の最終段階の議論に十分な貢献ができず、ご迷惑をおかけしております。流域委員会の皆さんのこの間の集中的な議論に大いに敬意を表すると同時に、その議論にオンタイムで追いついていくことができず、途中、意見を申し出たいまでも、その適切なタイミングを計ることができないままで来ました。一昨日、松本委員長から直接に、第 47 回流域委員会に向けての「意思決定案」というメモを送付いただきましたので、遅ればせながら意見書を提出させていただきます。

流域委員会の合意の方向については、基本的に松本委員長メモの内容に賛同いたしたいと思います。すでに以前、個人的意見として「基本高水流量 3,964 m^3/s 」、「基本方針レベルの対策の選択肢から新規ダムをはずす」、整備計画流量については明言までしていなかったものの、どちらかと言えば「20 分の 1、3400 ~ 3500 m^3/s レベル」を表明いたしました。個人的な思いとしては、それがファーストベスト（最善）の選択肢ではありますが、流域委員会として合意することの重要性も尊重したい点と、洪水調整施設の代替策を十分に比較検討する材料が現時点では乏しいという指摘も、事実として正しいものと認識しております。

したがって、個人的にはセカンドベスト（次善）の選択肢ではありますが、基本高水として H16 年型降雨から出された流量を選択すること、その流量分担の洪水調整施設として既存ダム・遊水地・新規ダムの 3 つを含め、既存ダム・遊水地を優先させつつ、今後長期的に検討すること。整備計画は 30 年間とし、目標流量として実現可能な 3400 ~ 3500 m^3/s に、さらに千刈ダムの増量による可能量を加え、計画規模 30 分の 1 に近づけることができるのであれば、そのレベルとすること。対策案からは新規ダムをはずし、河道対策および総合治水策に全力で取り組むこと。以上を骨子とする合意案に賛同したいと思います。

また、この間、「武庫川水系の環境への影響に関する検討資料」が提出され、議論されたとのことですが、今後は、この種の調査・評価あるいは「環境アセスメント」、さらには他の問題についての評価や分析について、同じ行政内のお手盛り評価ではなく、可能な限り第三者評価あるいは外部評価を活用するよう、提言に加えていただきますようお願いいたします。

以上